

特集 安心で暮らしをつなぐ

医療の充実という視点

誰もが安心して笑顔で暮らすまちになるために、医療の充実も最大の課題のひとつです。今号の広報むつでは、4月10日に稼働を開始したむつ総合病院血液浄化センターの果たす役割と、開設を長年待ち望んでいた患者の方々の声を特集します。

下北半島の透析医療の現状

血液浄化療法は血液から不要あるいは有毒な物質を除去する治療方法で、透析・ろ過・吸着・分離などの方法があります。

血液浄化療法のうち最も広く行われている血液透析療法。これを必要とするむつ下北管内の患者のみなさんは約230名います。このなかで、約70名ほどは、患者数の増加、透析スペースの不足、医療スタッフの不足がおもな要因となり、これまで下北管内の医療機関での血液透析療法を受けられない状況にあります。

1週間に2〜3回の通院、1回の通院につき3〜6時間の治療時間を求められる血液透析療法において、むつ市から青森市、三沢市、野辺地町などの医療機関へ通院を余儀なくされる状況が、患者のみなさんの体力的、精神的苦痛へとつながっていたことは想像に難くありません。

血液浄化センター開設

この現状を受け、下北半島の中心医療を担うむつ総合病院にこの春「血液浄化センター」が誕生しました。

血液透析患者数(平成28年4月現在)

下北圏内**232名**

うち 青森市内医療機関へ通院 **6名**
三沢市内医療機関へ通院 **19名**
野辺地町内医療機関へ通院 **42名**

むつ総合病院は、これまでも患者数の増加に合わせ、限られた空間を駆使し、透析施設の増床を図ってきましたが、今回の開設により、これまでにない20床の増床を実現しました。

また、見通しの良い広いスペースの確保による透析環境の整備や、センター誕生による専門の医師の新たな配置、医療スタッフの増員が図られ、より患者のみなさんが安心して治療を受けられることとなります。

これにより、今まで遠方の医療機関への通院を余儀なくされていた患者のみなさんのうち、段階的にはありますが、大勢の方が地元での治療が可能となります。



③



④



②

①延床面積 826.62 m²のセンター内には、50床のベッドが並ぶ。各ベッドの間隔は大きく取られ、スタッフの動きの円滑化や患者の精神的落ち着きへの期待がふくらむ。②むつ総合病院メンタルヘルス科診療棟への通路中ほどに入口。③中には広々とした待合室。④医師、看護師が増員され、受け入れ体制が強化された。